

05・どんな時も大好きだから、ひざまずきフェアでご奉仕する

〈シチュエーション〉

本編04から数時間後。9月3週目のある日、16時ごろ。

主人公とうたが利用している地下鉄の駅のホーム。

主人公が電車を待っていると、そこへ偶然うたがやってくる。

二人は予定を前倒しして、駅で話し始める。

SE1 駅の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0―15秒ほど流してSE2】

【その後、ごく小さな音量でトラック終了まで流し続ける】

SE2 うたの足音

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

●【背後・正面】 100センチ

■ホームに入ってきたところで、ベンチに座っている主人公に気づく

「戸惑い、複雑な気持ちで」

あっ……」

〈主人公〉

「……うたちゃん……」

●【正面】 100センチ へ移動

■主人公が振り向いた事で、声が正面の位置になる

「【※1】まで、一行ごとに少し間があく感じで※ 話す

また、優しく、少し申し訳なさそうに」

……家で、って約束したのに、ここで会っちゃったね。

隣、いい？」

〈主人公〉

「あっ……。うん……」

SE3 うたの足音2

【最初から最後まで流す】

【足りない場合は繰り返し流す】

【だんだん近づいてくる】

【0—2秒ほどまで流してから次の『うた』のセリフと同時に流し、▲1でストップする】

●【正面】 100センチから【正面】 30センチ まで近づいてくる

「※近づきながら※ 話す

ありがとう。

それからね」

▲1 ここでSE3がストップする

■ベンチに座っている主人公の目の前までくる

※止まってから※ 話す

「……ぎゅっ、てしてもいい？」※1

〈主人公〉

「うん……」

「【主人公の緊張を解こうと、少しおどけて】

……ふふ♥

良かったあ。断られたら泣いちゃうところだった」

SE4 うたが主人公をぎゅっと抱きしめる音

【最初から最後まで流す】

【一気に近づいてくる】

【少し大きめの音量で流す】

●【右】 0センチ ヘ移動

■右耳側に頭を置く形で、主人公を抱きしめる

「大好きだよ。

ぎゅーできて嬉しい……♥

【緊張を解くかのように、ゆっくり呼吸する】

はあ……すう……。

はあ……すううつ……。

【※2まで、優しく、主人公に威圧感を与えないよう気を付けて】
あのね」

SE5 うたがベンチに腰掛ける音

【最初から最後まで流す】

【ごく小さめの音量で流す】

● 【右】 30センチ へ移動

■ ベンチに腰掛け、主人公に、自分の膝に乗るように促す
認識阻害かけるからお膝乗りな？
もつとくつついて話そう？」 ※2

〈主人公〉

「……うん……♡」

「【とても優しく。おおむね、通常のうたに戻って】

ふふ♡

はい。

おいで」

SE6 主人公がうたの膝の上に乗る音

【最初から最後まで流す】

【次の『うた』のセリフと同時に流す】

●【右】 0センチ へ移動

■主人公が乗ってくるのを待つ→右耳側に頭を置いて、主人公を膝に乗せて抱きしめる

「んっ……。ふう……。ふう……。ふう……。ふうっ……♡

ふふっ♡

朝ぶりの君だあ。

【鼻で。主人公のにおいをかぐ】

すー……♡ はー……♡ すー……♡ はーっ……♡

いい匂い♡

私、君の匂い大好き。こうしてると、すっごく安心するの……♡

【耳にキスする】

ちゅ♡

大好きだよ。

【耳にキスする】

ちゅ♡

私は君の事が、どんな時も大好き」

● 【正面】 15センチ へ移動

■主人公と正面から向き合う。それから『なぜ昼休み自分を会う事を断ったのか』『なぜ自分の薬を持ち出したのか』という件について尋ねる

【※3まで、ゆっくりと、とても優しく尋ねる】

だから教えてほしいな。

……お昼休み、どうしたの？

会えなくて淋しかったよ？」

〈主人公〉

「ごめんなさい……」

「……」

SE7 うたが主人公の髪を撫でる音

【最初から最後まで流す】

【次の『うた』のセリフと同時に流す】

「大丈夫だよ。謝らないで。

君の気持ち、ちゃんとわかってるから。

でも……その。

私達は……一杯えっちしてるから。

離れてても、お互いの気持ちは何（なん）となく流れ込んでくる位の『繋がり』があるでしょ？

『君が私の気持ちを受け取る時』はまだ、うっすらした気持ちしかキャッチできないみたいだけど……。

逆は。『私が君の気持ちを受け取る時』は。

検査の時みたいに、何百キロ離れてても感じ取れるんだよ。

【少し尋ねにくそうに】

つまり……こんな事しても、すぐわかつちやうのに。

どうしてお薬、持って行っちゃったの？」※3

〈主人公〉

「だって……」

【意識して優しく、ゆっくりと。主人公に威圧感を与えないように】

うん。教えて。

話、聞くよ？」

SE8 うたが主人公の背中をぼんぼんと叩く音

【最初から最後まで流す】

【2回繰り返して流す】

【次の『うた』のセリフと同時に流す】

【小さな音量で流す】

「大丈夫。

大好きだからね」

〈主人公〉

「だって……あの薬を飲んだら、うたちゃんは……」

「【真剣に、優しく相槌を打つ】

うん」

〈主人公〉

「また、去年みたいに、ずっと起き上がれない位具合悪くなって。何回も吐いて……」

「【真剣に、優しく相槌を打つ】

……うん」

〈主人公〉

「毎年この時期、検査で一週間も休まなきゃいけないのに。

あの薬飲んだら、また学校来れない程辛い思いする。

それが、また何日も続くでしょう？ 私、そんなの嫌で……。だから……」

「『やはりそうか』と最初からわかっていた感じで。

また、困ったような、嬉しいような複雑な気分で」

……そっか。

やっぱり、私の事心配してくれたから、赤いお薬を持って行っちゃったんだね」

〈主人公〉

「うん……」

■主人公が今述べた事を復唱していく

「【優しく、少し申し訳なさそうに】

うん……そうだね。君の言う通り。

少なくとも、去年はちよつと酷かったよね。

今週は……九月の三週目は、私が初めてサキュバスの血に覚醒した『目覚めの日』がある。

その『目覚めの日』前後は、体調を崩す淫魔が多くて。

私の場合は、最初の数年は割と大丈夫だったのに、だんだん『えっちしたらい……』っていう衝動が、とにかく酷くなっちゃったよね。

だから私は研究所に相談して。

去年から、特別に作ってもらったあの赤い薬を飲んでる。

■優しく落ち着いて話しているが、当時の事は、本当は思い出すのも嫌なほどつらい。

また、話せば話すほど主人公を心配させてしまう。なので、少し言いくそうにする
【少し言いくそうに】

でも……飲んだら、その。症状は抑えられたんだけど……。

起き上がれない位、熱、出ちゃったし。

普通のご飯は、全部吐いちゃったし……。

検査で長く休んだばかりだったのに、また暫く学校も行けなくなって……。君に一杯心配かけたよね。

※一呼吸あけてから※ 話す

……でもね。それは私が納得してやってる事だよ。

『目覚めの日』前後の私がどれだけ危険かは、君もよく知ってるでしょう？
ほんとに『なりたて』の頃みたいに。

まだ、力と心をコントロールできなかった頃に戻っちゃって。

薬で頑張って抑えないと、とにかく自分の欲望を堪えられなくなって。

凄く身勝手で、暴力的な性格になって。

信じられない位意地悪な事も、考えたり、言ったりするようになって……。

大切な人を傷つける。

私、そんな風になりたくないの。

もう、二度と君に酷い事したくないの。

【優しく諭すように】

だから、お薬、返して？

■ 本当は少しも大丈夫じゃない。できる事なら主人公に助けてほしい
私は大丈夫だから……」

〈主人公〉

「……」

【優しく、困ったように】

やあなの？

■ 『自分で全部受け止める』 Ⅱ 『主人公が、うたの性欲のはけ口になる』
……また、最初の時みたい。自分で全部受け止めたいって思ってるって事？」

〈主人公〉

「……うん」

【複雑。『悲しい』『困った』『でも嬉しい』という3つの感情がある】
どうして……。

赤いお薬のない私は、どんな乱暴な事するかわかんないんだよ……？

■言葉では『主人公を傷つけたくない』と言いつつ、薬を乱暴に取り返すような事はしない。

暗に『薬を飲みたくない。主人公に助けてほしいけど、自分からは言えない』というSOSを出している。『六年前』Ⅱ『前日譚でみられた、乱暴な自分』

【優しく、真剣に訴える。主人公を説得したい。

だんだん苦しそうになっていく】

私はもう、六年前みたいな事したくないの。

ちゃんと。ちゃんと優しくて、安全な彼女でいたい。

……今も君の事、大好きなのに滅茶苦茶にしたくて。

力で無理やり、言う事聞かせたくて。

頭変になりそうなのに……」

〈主人公〉

「うん……」

● 【右】 0センチ へ移動

「【泣きそうな声で】

なのに……」

SE9 うたが主人公を強く抱きしめる音

【最初から最後まで流す】

【一気に近づく】

【次の『うた』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

■主人公の右耳側に頭を置いて、主人公を強く抱きしめる

「なのに、嬉しいって思っちゃう……」。

君がそんなに私の事想ってくれて嬉しいって。頼りたいって思っちゃう……」。

※少し間をあけてから※ 話す

【泣き笑いして、申し訳なさそうに】

……へへ。ごめんね。

『繋がり』が深いと、こういう時不便だね……♡

いくら君からは感じ取りにくいって言っても。

こんなんじゃ私の本音。

もう多分、誤魔化せない位全部バレちゃってるよね……♡

●【正面】 0センチ へ移動

■主人公が顔を正面に向けて、キスしてくる

「【少し驚いて。主人公の顔が近づいてくる】
あ……。

【唇に受け身のキス。一方的にされる感じ】

……んっ ♡

ちゅっ……ちゅ ♡ ちゅっ……ちゅうっ ♡

■苦しいが、嬉しい。

主人公が自分を想って、辛い役割を引き受けてくれようとしているので

【苦しそうな呼吸。赤い薬を飲んでないので、実はもうかなり体調が悪い】

はぁぁ…… ♡

はぁ、はぁ、はぁ。

はぁ、はぁ、はぁあっ……。

■泣きそうになりながら、本音を打ち明ける

【泣きそうな声で】

ごめん……ほんとに飲むの怖い。

あんな苦しいの、やなの……。

でも仕方ないって。『頑張って我慢しよう』って思ってたけど。
やっと帰って来れたのに、また一緒に居られないのやだよ……。
本当は助けてほしい。

怖い気持ちも、不安な気持ちも。

今のこの、自分が自分じゃなくなっちゃいそうな気持ちも全部。
全部受け止めて欲しいって、思っちゃうの……。」

〈主人公〉

「……………」

●【正面】 30センチ へ移動

■主人公が膝から降りる

「優しく、少し不思議そうに」

「……ん？ 降りるの？」

SE10 主人公がうたから離れる音

「最初から最後まで流す」

SE11 主人公がうたから離れる音2

【最初から最後まで流す】

●【正面】 30センチ 上50センチへ移動

■主人公が目の前にひざまずく。今この場所で、自分の尻尾に奉仕しようとしているのだと気づく。だが、強く止めない。『主人公が望んで一方的にした事なら、こんな場所での奉仕も受けていい』と思ってしまう

「【目の前で何が起きているのかわからないくだんだん事態を理解していく。

青文字部分で、尻尾を口に入れられ、しゃぶられ始める】

……」

SE12 主人公がうたの尻尾を触る音

【最初から最後まで流す】

【次の『うた』のセリフと同時に流し、▲2でストップする】

【少し大きめの音量で流す】

「……？」

何（なん）で、尻尾、触ってるの……？」

▲2 ここでS E 1 2がストップする

S E 1 3 主人公がうたの尻尾をしゃぶる音A

S E 1 3 主人公がうたの尻尾をしゃぶる音B

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【S E 1 3 AとBをくっつけて、組み合わせ流す】

【次の『うた』のセリフと同時に流し、▲3でストップする】

■主人公が尻尾への奉仕を始める

「んっ……」

【複雑。『戸惑う』『申し訳ない』『嬉しい』『気持ちいい』が入り混じって】

あっ……♡ 駄目……。

駄目だよ……そんな事したら。

ほんとに、抑えられなくなるよ……？

■激しく口で愛撫され、容赦なく、一気に攻められる。あっという間に達してしまう

「【※4まで、非常にゆっくりと、一行ごとに少し間があく感じで。」

小さく、静かに、うめくように喘ぎ、呼吸する。

『声をこらえていて遠慮がちだが、ものすごく気持ちよさそう』という感じで

んっ……♡

あっ。

ああっ……♡

……はあ……はあ……はあ……はあ……はあっ……♡

はあ、はあ。

はあ、はあっ……♡

んっ♡ んっ♡ んうう♡

あっ……♡

あああああ……♡

あっ。

あ。

あ。

あ♡

んっ♡ あっ。

待っ、て……。

あ。

や、ば。

あつあつ。あ……♡

あああああ……♡ ※4

▲3 ここでSE13がストップする

SE14 うたがしっぱから、分泌液を主人公の口内に流し込む音

【最初から最後まで流す】

【3回繰り返して流す】

【最初は大きめ、次は標準、最後は小さめの音量で、1回ごとに、だんだん音が小さくなる】

■あつという間に絶頂してしまつて、主人公の口の中に大量にサキユバス汁を吐き出す

【※5まで、苦しそうな吐息交じりに話す。

『非常に苦しそうだが気持ちよさそう』から、だんだん落ち着いていく】

「はーひゅうつ、はーひゅうつ、はーひゅうつ、はーひゅうつ……♡

はあ……はあ……♡

はあ……はあ……♡

はあ……はあ……♡

はあ……はあ……♡

【ぐったりと、もうろうとした夢見心地で】

ごめ……まさかしてくれると思わなくて……♡

大丈夫？ 口の中、苦しくない……？

■主人公が首を振る。

ホッとすると同時に、こんな事をさせてしまった罪悪感でいっぱいになる

【優しく、少し泣きそうになって】

……そっか。

ごめんね……。大好きだよ……。ありがとう。

少し、楽になった……。かも……。

ほんと、ありがとう……。

はあ、はあ、はあ。

ふう、ふう、ふうっ……♡

●【正面】 0センチ へ移動

■主人公が身体を少し上げて、キスしてくる

「唇に受け身のキス」

ん……ちゅ♡

※少し間をあけてから※ 話す

【困ったように、泣きそうな声で。『こんな事・こんなの』 Ⅱ 『性的な奉仕』

ああ……駅でこんな事させちやった……。

こんなの、ずっとしてなかったのにね。

はあ、はあ、はー……。

ちゃんと、皆に自慢できるような。

真面目な優しい彼女で居たかったのに……♡」※5

●【正面】 15センチ ヘ移動

■ 少しでも離れて、改めて確認する。絶頂したばかりなのに、もう強い衝動がこみあげてくる。もうセックスしたくてたまらない。

「【自分が自分でなくなっていくのを感じる。

優しく尋ねつつ『引き返すなら今だよ』という気持ちと『お願い、助けて』という気持ちの両方がある」

……ねえ。

こんなに好きなのに……大事にしたいのに……酷くされたいの？♡

前にもあんな事があったのに。

全部受け止めたいっていうの……？

■ 主人公が頷く

【泣きそうな声で。でも嬉しそうに】

馬鹿だねえ……♡

【※6まで、苦しそうな吐息交じりに話す。

『また、苦しそう』から、『明らかに普通じゃない。異常に興奮している』になっていく
はあ、はあ、はあ。

はーすう、はーひゅう、はーひゅう、はーひゅう……。

大好きだよ……♡

■ 『繋がり』によって、主人公の気持ちを感じ取る。

主人公が『このまま外でセックスする』事について興奮していると理解する。『それなら、もういいか。主人公が望んでいるのだから、お望み通り思いっきり犯してやろう』という衝動にのまれていく

※少し間をあけてから※ 話す

【甘く、サキユバスっぽい蠱惑的な感じで。

淡々としているのにセクシーに、ゆっくりと独り言のように。

聞き手に『あれっ？ なんだかセクシーで『強キヤラ』っぽい雰囲気になったな』と思わせる】

……でも、ちよつと、わかつちやったかも。
流れ込んで……来ちゃった。君の、気持ち。

ふふふっ。

そっか……そういう事なら……いいのかな？♥

私も。したい事して。いいのかな……？

はー……。はー……。はー……。はー……。はー……っ。

あゝ……やばい……♥

今してもらったばかりなのに、もうまたおかしくなりそう……♥
そうだよね。

……薬。『飲んで下さい』って言われた時間から、もう四時間も過ぎてる」

SE 15 地下鉄が到着する音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【次の『うた』のセリフの途中から流す】

【さらに次の『……いいよ？ しよう？』のあたりで、ちよつど停車く停車音が鳴る（20―25秒あたり）が鳴るイメージで調整する】

【その後、発車する（42秒あたり）の前にフェードアウトする（まだ乗車していないの

に、発車してしまったようにはならないようにする」

「はあ、はあ、はあ。

はーっ、はーっ、はー。

はあっ、はあっ、はあっ……♡」※6

●【左】 0センチ へ移動

■ちようにどホームに電車がやってくる。それを指して『電車でセックスしよう』と提案する

「【※無声音で※ 赤文字部分をささやく。

優しいが、なんだか別人のように。

穏やかだが拒否権のない、強制的な雰囲気で」

……いいよ？ しよう？

丁度、電車来たから。

あそこで。えっち。しよ……？♡」

ここでフェードアウトして終了。